

令和元年度 第 1 回磐田市立図書館協議会会議録

- 日 時 令和元年 7 月 11 日（木） 午後 3 時から午後 4 時 30 分まで
- 場 所 磐田市立中央図書館 2 階会議室
- 出席者 委員：新貝重幸、田中さゆり、児玉恵里子、藤原なお美、
青島公悦、小柳貴臣、服部直志、菅久美（以上敬称略）
- 事務局等：
- 村松啓至教育長
市川暁教育部長
中央図書館：伊藤八重子館長、鈴木法之主査、山中則明主査、青島健太主事
福田図書館：榎本朋久館長 竜洋図書館：伊能明彦館長
豊岡図書館：高橋道博館長
学校教育課：伊藤一司課長補佐
ひと・ほんの庭 にこっと：岡本由紀子館長補佐
- 傍聴人 0 名

□内 容 以下のとおり

議事に先立ち、委員へ委嘱状の交付、会長の選出及び職務代理者の指名が行われた。

会長は、磐田市立図書館条例施行規則第 14 条第 2 項により委員の互選で選出し、青島委員が賛成多数で会長に就任した。青島会長の指名により、田中委員が職務代理者に就任した。

議事（1）平成 30 年度事業報告及び令和元年度主要事業について

1. 平成 30 年度の事業報告について（以下、事務局）

（1）図書館資料整備事業

- ・開館状況について、竜洋図書館は、11 月の空調設備工事による 11 日間の臨時休館により、前年度よりも合計数値は減少している。利用登録者は、にこっとの 981 人を合わせて 3,448 人に図書館等利用者カードを新規に作成していただいた。貸出利用者数は、中央、竜洋、豊岡図書館が前年度より増加している。
- ・資料の所蔵状況については、全館において、主に閉架書庫の蔵書の見直し、汚破損本の除籍を実施したことにより減となっている。また、中央図書館では旧公民館用の古い書籍を除籍したことも所蔵数減の主要因である。
- ・資料別貸出状況については、福田、豊岡図書館の個人への貸出合計数が前年度より増加している。資料収集に関する役割分担に加え、各館の特徴を活かした資料の配置替えや、利用しやすい書架作りを各館で実施したことが成果となっている。例えば、福田図書館の大活字本の貸出は前年度に比べて 25%の増加となった。また、にこっとが開館したことにより、各図書館の児童書の貸出数は前年度に比べて減少したが、中央、福田、豊岡図書館では一般書の貸出数が増加し、役割分担の成果が見られている。
- ・団体利用状況、予約・リクエスト・レファレンスについては資料に記載のとおりである。予約・リクエストは前年度に比べ、8,720 件の増加、レファレンス件数は 515 件の増加となった。なお、これまで蓄積してきたレファレンス回答事例を国立国会図書館の協同データベースに登録

し、全国の図書館のレファレンス回答に寄与することができた。

- ・電子書籍サービスについては、平成 28 年度 10 月から県内初の取り組みとしてサービスを提供している。前年度に比べて資料数が増えたことや、静岡産業大学にもご協力いただきアンケートを実施する等のサービスの周知に努めたことにより閲覧・貸出回数が増加している。今後も、中央図書館所蔵の「赤松文庫」を中心とした地域資料の電子書籍化を進め、資料の紹介に努めると共に、ニーズの把握と一層の情報発信に努めていく。

(2) 図書館施設活用事業

- ・中央図書館での開館 25 周年記念イベントをはじめ、各館の状況に合わせて、様々なイベントを実施し、多くの参加があった。また、図書館職員だけでなく、ボランティアの方の協力を得て、おたのしみ会やおはなし会を開催することができた。今後もボランティアの方の知識や経験をお借りして、市民の皆様により親しまれる図書館活動を展開していきたい。
- ・中央図書館の展示室の利用については、合計で 44 事業を開催し、入場者は合計 34,841 人であった。入場者数は前年度に比べ、2,788 人増加した。

(3) 子ども読書活動推進事業

- ・「第 3 次磐田市子ども読書活動推進計画」に基づき、記載のとおり実施した。計画の進捗状況については、別冊資料に掲載した。図書館においては、すぐれた絵本の読み聞かせやストーリーテリングを通しておはなしの楽しさを伝え、家庭における読み聞かせのきっかけを作ることを目的に、各館においておはなし会を実施した。ブックスタート事業は、対象者 1,248 人に対して、925 人の参加があり、参加率は 74%であった。
- ・茶の間ひととき読書活動は、市内の全小学 3 年生の親子を対象に、子どもに本を読むことの楽しさを伝え、親子のコミュニケーションを深めることを目的に実施している。昨年度から作文集の作成はとりやめ、年度末の反省コメントに替えたり、会議の回数を 5 回から 2 回に減らしたりする等、学校の先生方や役員の負担を減らしながら事業の継続を図っている。
- ・読み聞かせボランティア養成講座は、図書館や学校でボランティア活動を希望される方を対象とした 4 回連続の講座で、33 人の受講があった。講座終了後には、昨年度と同様に講師の先生に依頼して絵本の勉強会を 6 回開催し、延べ 62 名の参加があった。

(4) 図書館視覚障害者サービス事業

- ・資料の貸出と対面朗読は資料に記載のとおりである。毎月の声の図書館だよりや、利用者からの個々の要望をお聞きして、点訳、音訳図書を郵送している。また、協力員の方に、点訳、音訳資料の作成をしていただき、読書機会の提供に努めた。今後も、外部講師や相互の勉強会などを通してスキルアップをはかり、円滑な事業の継続を図っていきたい。

2. 令和元年度主要事業概要について（以下、事務局）

基本方針及び運営方針について

- ・基本方針「市民に役立ち、市民とともに歩む図書館」と運営方針「①くらしとまちづくりに役立つ図書館をめざします ②子どもたちに読書の楽しさを伝えます ③資料・情報とそれを求める市民を結びます ④図書館サービスを利用できる機会をひろげます」は、今年度も継続し、事業を展開していく。また、中央、福田、竜洋、豊岡の 4 つの図書館は 1 つの磐田市立図書館であるという認識のもと、各館の特色を活かした厳選した選書に努め、各図書館の活動を市民

の皆様におわかりやすく情報発信し、新たな図書館利用に繋がりたいと考えている。引き続き「磐田市ひと・ほんの庭にこっと」との連携にも努め、市民へのサービスの向上を図っていく。

事業別の主要事業について

(1) 図書館施設管理・施設活用事業

- ・施設管理では、各館において日々の巡回等を確実に実施し、市民が安心、安全に利用できる快適な施設の維持管理に努めていく。
- ・施設活用では、行政他部署との連携強化を図っていく。具体例としては、中央図書館とスポーツ戦略室の連携企画で、ラグビーワールドカップのカウントダウン企画があり、展示コーナーの設置や、キャンプ地の国であるオーストラリア、アイルランド、ロシアのおはなしを紹介するおはなし会などを予定している。
- ・中央図書館においては、健康医療の棚を使って、テーマを設けて情報発信をしていく。現在は、高齢者支援課からのハンドブック等の情報を活用し、認知症予防について、書籍と共に最新の情報発信に努めている。

(2) 図書館資料整備事業

- ・昨年度に引き続き、各館の特色を生かした選書及び資料の適正管理を実施していく。中央図書館においては、市民の皆様の暮らしの中での疑問や課題の解決に役立つレファレンス資料から、日常生活を楽しむための趣味や娯楽の本まで幅広く収集する。中でも英語多読資料や健康医療関係の資料に重点を置いて提供していきたい。福田図書館では、渚の交流館との情報連携や、利用の多い高齢者向けの大活字本、時代小説等の充実、竜洋図書館では、楽譜などの音楽資料や視聴覚資料の充実を図っていく。豊岡図書館では、生活に密着した資料を中心に、絵本等の児童書のコーナーも利用しやすい工夫を継続していく。
- ・電子書籍サービスは、今後も地域資料の電子書籍化を継続し、図書館だよりやホームページ、活用講座等で市民への周知にも努めていく。

(3) 子ども読書活動推進事業

- ・「第3次磐田市子ども読書活動推進計画」に基づき、ひとつひとつの事業を丁寧に実施していく。読み聞かせボランティア養成講座は、今年度から図書館職員が講師を務め、連続4回の講座を6月から7月にかけて実施した。実際に絵本を読み合う時間を多く取り、実践に役立つ分かりやすい講座となり、大変好評であった。

(4) 図書館視覚障害者サービス事業

- ・点訳、音訳協力員の皆様に協力いただき、事業の円滑な継続実施を図っていく。今年度から、協力員の皆様に作成していただいた点訳図書や録音図書を、国立国会図書館へのデータ登録により協力していく予定である。市内の視覚障害者の方だけではなく、ネットワークを活かして、全国の対象の方に磐田市の協力員の皆様が作成した資料が役立つことを考えている。そのために、協力員の方を対象とした外部講師等による勉強会を継続して実施していきたい。
- ・視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律が令和元年6月28日に施行されたが、図書館においても一層の利用促進に努めていきたい。

3. 電子書籍サービスの取組状況について（以下、事務局）

- ・電子書籍サービスの取り組みの経緯については、平成 26 年度から赤松文庫等の地域の貴重な資料を後世に残すためにデジタル化を進めるとともに、保存するだけでなく、広く知っていただきたくことを目的に、図書館ホームページ上で一部を公開したことが始まりとなっている。しかし、ホームページ上では資料の検索ができない、掲載するための容量が少ない等の問題があったため、平成 28 年 10 月に県内で初めて電子図書館システムを導入し、紙の本と同様に検索・貸出・返却・閲覧ができるようにした。また、平成 29 年 8 月からは、商用コンテンツの貸出を開始した。
- ・電子書籍サービスでは、図書館が独自でデジタル化した地域資料と、出版社からデータを購入している商用コンテンツの 2 種類を提供している。地域資料は、図書館が独自でデジタル化した資料で、赤松文庫や文化財課所蔵の絵図や文書、中学生の手作り絵本等がある。これらは図書館等利用者カードがなくても、誰でも閲覧が可能である。商用コンテンツは、図書館向けに許諾を受け、出版社がデータを保有している資料であり、無料で提供されるものと有料のものがある。商用コンテンツを利用するには、図書館等利用者カードが必要である。
- ・閲覧・貸出状況については、平成 29 年度の閲覧・貸出総数 2,113 回に対し、平成 30 年度は 3,197 回と約 1.5 倍の増加となっている。平成 30 年度に利用者拡大に向け、選書の見直し、講座やイベント開催時の電子書籍サービスのデモンストレーションの実施、利用者ニーズ把握のためのアンケート調査等の取り組みの成果と考えられる。資料種別の閲覧数では、地域資料の閲覧が約 7 割を占めているが、地域資料の閲覧は、図書館等利用者カードがなくても、閲覧できることが要因として考えられる。
- ・説明後、実際の電子書籍サービスのデモンストレーションを実施し、図書館だより 7 月号の「電子図書館より 1 冊」を例に、電子図書館利用方法を説明した。
- ・追加資料について、利用者の方からいただいた意見「わたしのひとこと」の抜粋や、「万葉歌展」、「図書館イベントスタンプラリー」の紹介、「平成 30 年度事業報告」、「子ども読書活動推進計画」、「こどもとしょかんだより」、「リブネット」の案内を行った。

〈質疑・意見〉

- 「図書館を見ればその町・市の文化レベルがわかる」ということで、くらしとまちづくりに役立つ図書館を目指すという運営方針は良いと思う。
- 電子書籍サービスについて、当面の方針について教えてほしい。
(事務局) 資料の保存及び公開を第一としてやっていく。保存にとどまるのではなく、貴重な地域資料を市民の皆様にも知ってもらうため、提供に努めていくことが磐田市立図書館の使命と考えている。まずは約 3,300 冊の赤松文庫の着実な電子化、公開という手順で行っていく。また、商用コンテンツについては、隙間の時間で楽しむことができるという電子書籍の特性から、隙間時間での読書や旅行先での情報収集等に活用してもらおう等、紙の本と使い分けて、紙と電子のそれぞれの良さを伝えていきたいと考えている。
- 英語多読資料について、にこっとや地区館にもあると良いと思う。
(事務局) 英語多読資料については、子どもから高齢の方まで、楽しく学べるということで好評をいただいている。まずは中央図書館で始めたものであるため、今後の貸出状況等から検討し

ていきたい。

○IT化が進み、読書や授業も画面を使って行われることも増えているなか、やはり親から本を読んでもらうということを今後も大切にしていきたい。

○磐田市は、ボランティアの方がおはなし会など子育てや読み聞かせに積極的に携わっていただいているので本当にありがたい。

○図書館イベントスタンプラリーがあるが、子どもたちだけでいろいろな図書館に行ってみようというのは難しい。図書館を巡るバス等交通手段があるとさらに楽しんでもらえるのではないかと思う。

(事務局) 小学校によっては、3年生が図書館見学ということでクラスごと来館してもらう機会がある。そのような機会を捉えて行事を連携させたり、おはなし会を開催したりすることもある。学校や幼稚園、保育園などとの連携の重要性は認識しており、協力していきたいと考えている。

○ブックスタートでもらえる本について、兄弟で同じ本だったという人がいるので、選べたら良いと思う。

(事務局) にこっと、図書館の職員にお申し出いただければ代替本と交換することも可能である。

○電子書籍サービスの充実具合を知り、素晴らしいと思った。隙間の時間に情報を得るという仕組みは現代にあっていと思う。読む資料から見ることを重視した資料に重点を置いている理由も理解できた。

○校長会で、中学校の図書館活用事例の紹介があったが、小学校でもできる活用事例などはあるか。来館したり、借りたりするだけでなく、他の活用の事例があれば知りたい。

(事務局) 校長会では中学校の事例のみの紹介だったが、田原小学校3年生の図書館ガイダンスの例がある。内容は、図書館を知ろうという図書館ガイダンスで、職員が説明をした。児童はその話や言葉をきちんと覚えていて、後日学校で5・7・5の形式で図書館ガイダンスの感想等を表現してくれた。中央図書館のロビーに展示し、市民の皆様にも紹介するという、小学校と図書館の取り組みが行われている。学級単位でも構わないので、小学校の読書活動を図書館でも紹介させていただければと考えている。

議事(2) その他

事務局より、秋に開催される「令和元年度静岡県図書館大会」の開催の案内と来年1月に予定されている「令和元年度第2回磐田市立図書館協議会」の案内をした。